

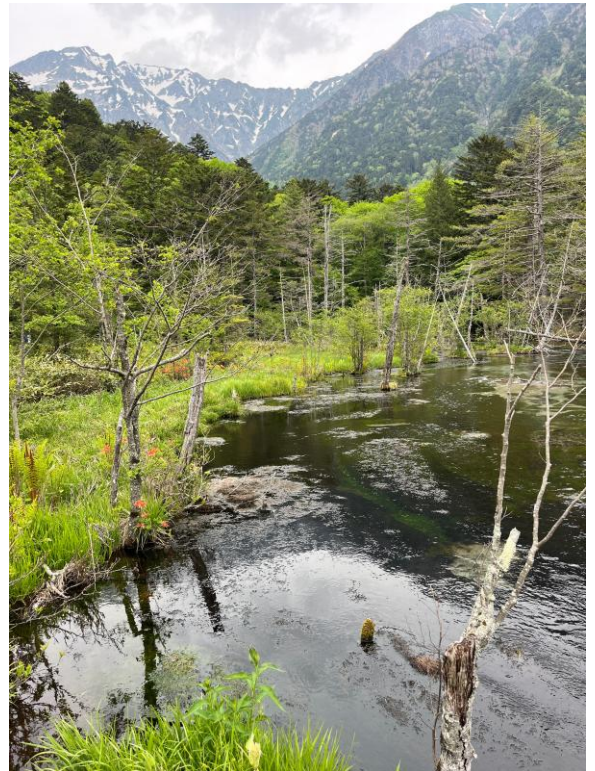
マイテントで岳沢の残雪と穂高岳の展望を楽しむ

(報告) FY

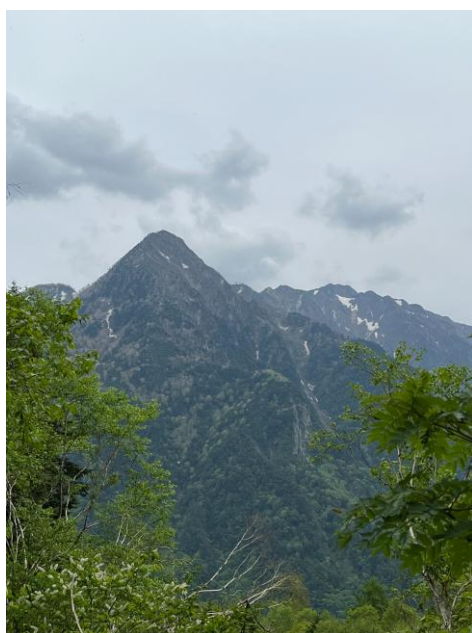
◎山行期日：2025年 6月8日(日)～10日(火)

◎メンバー：FY

上高地の河童橋を渡り、北に木道を10分ほど歩くと湧き水が流れる岳沢湿原が現れる。静寂な流れの向こうに明神が岳や前穂高岳などの岩稜が見渡せる。途中の樹林帯がすがすがしい。水の豊かさに心が癒される。この豊富な水が山岳景観を引き立てている。躑躅のオレンジが染みるほど咲いている。今回はここからテントを担いで岳沢小屋に向かい穂高連峰の展望を楽しもうとする企画だ。テントを担ぎ二日分の食糧とシュラフ・マット等と担ぐとけっこうな重さになる。この重さを感じながらゆっくりと沢を渡りながら登山道を登る。



小屋の回りは雪渓が残り、雪渓に満たされている西穂高岳や奥穂高岳・前穂高岳の展望が素晴らしい。南がわに目をやるとV字谷の向こうの中央に乗鞍岳が聳え、その東側に焼岳が望める。谷の西側には霞沢岳と六百山が存在している。上高地から眺める六百山はそれほどの存在感は無いが、ここから眺める六百山はピラミッドのように先鋭な独立峰だ。立派な山だ。見直した。



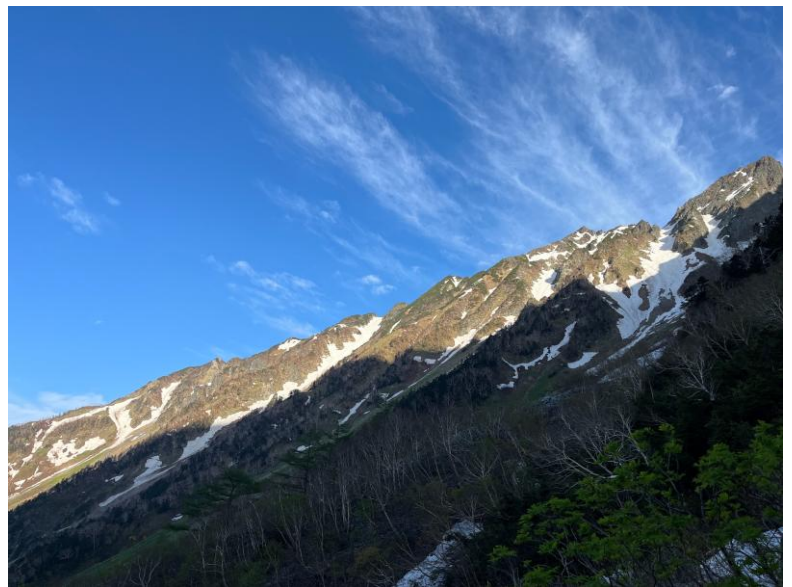
下りてきた年輩のカップルの女性から「沢の向こう側に熊が二匹いたので気をつけてね」と言われる。2年前に岳沢小屋でテント泊をしようとしたが熊が出没しているとの情報があった。このときの熊は保護されて別の場所に移動させられたとの話だが、他にもまだ熊がいるらしい。

小屋に着き、受付をしたらスタッフの方が「テントの中に食糧を置くときは必ず、袋に入れてザックの奥にしまって下さい。熊がいます。」と言われた。フードボックスみたいなのは無いとの事だった。

岳沢小屋のテラスからの展望を楽しむ。中央には乗鞍岳がドカンと聳えている。右側に焼岳。乗鞍の左側には霞沢岳その左側には六百山の鋭鋒が屹立している。

下には上高地帝国ホテルの赤い屋根が緑に囲まれて存在感を出している。帝国ホテルで使用する水は全て六百山の沢水を使っている。なかなかの展望だ。本日の登山客は途中ですれ違った日本人が5~6人。ドイツ人が一人だった。

小屋の奥のテント場には一人先客がテントを張っていた。挨拶をして隣にテントを張る。5時頃には夕食の準備が整う。本日の疲れを癒しながら隣人と宴を楽しむ。彼は小屋で買い求めた「3180ワイン」を取り出している。塩尻で作られたワインだ。私はペットボトルに入れた「オールドパー」を取り出す。豪華な酒とつまみで山の話がはずむ。彼は単独でテント泊で登る事が多いそうだ。



翌日、6時。彼はテントを撤収し下山していった。彼はアイゼンとピッケルを持って来なかったので前穂高岳は登らなかったそうだ。確かにテント場の回りは大量の雪渓が詰まっている。

翌日、7時頃にアイゼン・ピッケル・ヘルメットを装備して前穂高岳3090mに登り始める。巨大な雪渓を渡るが足跡のトレースが見つからず、登山口を探すが見つからない。さまよっているとケルンを積んだ登山道が見つかった。雪渓に紛れていたのが苦労した。雪のはりついていない道は快適だ。しかし厚い雪渓に覆われてくる。岩を伝い、雪の上を慎重に歩いたが道が消える。あちらこちらとルートファインディングするが雪に覆われたルートは探すのに苦労する。何とか2時間ほど登ると完全に雪渓に閉ざされた。方向は当たりがついているのだが雪渓



の中の道が見つからない。これ以上ルートを探しても道は見つからない。紀美子平の手前あたりで下山することにする。アイゼンとピッケルが良く効いているので安定した歩きが確保出来た。雪斜面にしっかりと食い込む。小屋の前には6月20日まで前穂高岳はトレイルクローズと看板が出ていた。

10時に小屋に戻る。晴天に穂高の山々が輝いている。前穂高岳は諦めたので、このあとは一日のんびりとテラス展望を楽しみながら酒を呑んだり、読書する。至福の一時だ。昼頃になると上高地からのハイキングの方々が登ってくる。驚いたのはインバウンドの方が多いことだ。NYからきた若いカップル。ドイツ人の3人の家族は6歳くらいの子どもを連れていた。

彼らは朝一番で松本から上高地に入り、夕方のバスでまた松本に戻るそうだ。もう一人は男性のイタリア人で三週間の日本滞在だそうだ。東京見物してすぐに松本にきたそうだ。山が好きで特にロッククライミングをやっているそうなので改めて日本に来たいと言っていた。日本の方は4人くらい来ていたが、皆さんテラスで休憩して下山してしまった。この素晴らしい展望のキャンプサイトは涸沢にも負けなと思う。贅沢な時間を過ごした。今日の岳沢小屋の客は私一人だけだ。小屋のスタッフに聞くと小屋が混み始めるのは7月20日頃からで8月まで満杯だそうだ。

三日目は夜中から雨音がテントを叩くので起きてしまった。天気が悪くなるのは覚悟していたが、雨中のテント撤収は気が重い。明るくなるまで寝ることにする。雨は止まず6時に葱ラーメンを食べて落ち着く。7時。シュラフ・マットを畳みザックに詰める。ピッケルアイゼン等を片付けテントの外に出し傘で覆う。



テントを畳むが雨を吸ったテントは重い。頑張って30分ほどで下山開始。雨で道が濡れているので慎重に歩を進める。11時に小梨平キャンプ場に到着。登りの登山者には一人も会わない。この雨の中では登る人もいない。一風呂浴びて気分爽快となるが再び雨に濡れる。本日から東京は梅雨に入ったと天気予報で言っていた。

《コースタイム》

6月8日（日）晴れ

7：15バスタ新宿ー13:00上高地B Tー16：

30岳沢小屋テント泊（約3時間30分）

6月9日（月）晴れ

前穂高岳に登るも希美子平手前で撤退。（約3時

間） 岳沢小屋テント泊

6月10日（火）雨

8:00岳沢小屋テント撤収ー11:00上高地 （約

3時間）小梨平で風呂・ランチ

15：50上高地B Tー20：00バスタ新宿

テントー泊2000円

